

No.3 1 4 6

氷瀑 廣滝、光徳温泉スノーシューハイク

廣滝・光徳温泉

実施日 2024年2月10日(土)～11日(日)

天候 晴れ

リーダー 瀧澤 きよの

参加者 若村勝昭、遠井謙策、伊藤久雄、
瀧澤きよの、宮崎敏男、佐藤聡
美、津田和子、村山智子 計8名

費用 2,784円(浅草～北千住起算)

🚗1,750円(湯元フリーパス,冬季サ
ービス) 宿泊費 11,000円

タイム 2/10 東部日光駅(9:35🚗)湯元
温泉(10:55～11:05)ビジターセ
ンター(11:20)民宿かつら荘
(12:00)金精の森コース(1
4:00～14:15)民宿かつら荘
(14:30～15:15)泊

2/11 民宿かつら荘(8:00)湯
元温泉(8:25🚗)湯滝入
口(8:30)湯滝(9:40～9:55)
泉門池(10:15)分岐(10:20
～10:30)分岐(11:00)林道
(11:15)展望台(11:25～12:
00)赤沼(14:00～14:07🚗)
東武日光駅(15:15)

鉄道・バスを乗り継いで奥日光湯



元温泉へ。ビジターセ
ンターでス
ノーシュー
を借りる。
優しく可愛
い栃木弁の

お姉さんが丁寧に履き方・歩き方を
教えてくれる。見上げれば何とも形
容のしようもない深いコバルト色の
空。まぶしく輝く白銀の雪とのコン
トラストに息をのむ。



金精沢の緩斜
面を登って
いく。風も
なく静かな
森だ。キ
ュッキュッ
、グワッグ
ワッ。

雪を踏みしめる音と野鳥のさえずり
だけが聞こえる。裸木の間から雪の
金精山・五色山が見え隠れする。

慣れぬ足取りだ
ったメンバーも
その歩みはいつ
の間にか快調な
ペースに。新雪
に身を投げてひと
がたを拵えたり、
雪だるまを作った
り、思い思いに約
2時間半ほどのス
ノーハイクを楽
しんで今日のゴ
ール。



汗をかいた後の喉の
渴きを癒すのはリー
ダーアイディアの甘
酒。ガスストーブで
沸かしたそれは熱く
甘く、疲れ冷えた体
を一気に回復させて
くれる。

宿に着き靴を脱ぎ白濁の湯に身を
沈めれば、お決まりのコースに突入。

虹鱒・湯葉・山菜天ぷらの地元料
理に舌鼓を打ちつつ、乾杯の酒も進
み、部屋に戻って暫しの歓談。T氏
がW氏にダジャレ合戦を挑むも、レ
ベルが違うと一蹴されたり、雪山の

魅力や行った山行きたい山につき語り合ううち、いつの間にか初日の夜が更けていった。

明けて二日目。朝風呂を浴びる頃は粉雪が舞っていたが、出掛ける時は今日も青空。思わず笑顔がこぼれる。



歩き始めは湯滝。真冬でも水量は豊富で幅も高さも最大級の迫力だ。樹間を抜けて泉門池に着く。この池は“いずみやどいけ”という、読めない。戦場ヶ原の向うに男体山が見事。雄大な姿を見ると又登ってみたいになってきた。

一休み後、弓張峠へ向け歩き始める。暫く行った頃、Iさんが付いてきていないことに気付く。待てど暮らせど姿を見せない。携帯で連絡を試みるも不通。

仕方なく全員が戻ることに。それでも連絡が取れない。後刻、Iさんは途中分岐を別ルートを選択して単身行動を取っていたことが分かり、心配した怪我や事故等は発生しなかったのだが、お互い大いに反省すべき課題を提供されたことになる。

不安を抱えながら、本体7名は戦場ヶ原一般ルートを通り、早めにゴール地



点の赤沼へ向かうことに計画を変更した。

事件はあったものの、今日の山行も好天の下昨晚の新雪が条件をより快適に変え、気持ちよく進んでいった。

小田代ヶ原での昼食は昨年好評だった“お茶漬け”が準備され、二番煎じも



絶品なら話は別と拍手喝采。メインの庵滝探訪は来期テーマに取っておきましょうと一件落着。

一騒動ありの真冬の祭典も、楽しく愉快に無事締めることが出来た。

今回の山行が、こぶし会の一層の発展の起爆剤とならんことを祈念し、筆を置くこととしたい。

(記・遠井謙策)

